

# 伊佐俊一 学位論文審査要旨

主 査 佐 藤 建 三

副主査 岡 田 太

同 林 眞 一

## 主論文

Serum osteopontin levels are highly prognostic for survival in advanced non-small cell lung cancer: results from JMT0 LC 0004

(血清中オステオポンチン濃度は進行非小細胞肺癌において高度な生存予測因子である：

JMT0 LC 0004の結果より)

(著者：伊佐俊一、川口知哉、手良向聡、湊浩一、大崎能伸、柴田和彦、米井敏郎、林原賢治、福島雅典、河原正明、

古瀬清行、Philip C. Mack)

平成21年 Journal of Thoracic Oncology 4巻 1104頁～1110頁

# 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は進行非小細胞肺癌患者の生存予測因子を同定する目的で、日本・多国間臨床試験機構が実施したJMT0 LC 0003に登録されたⅢB、Ⅳ期の患者より化学療法開始前に採血し、OPN、bFGFを測定し、患者特性、奏効率、無増悪生存期間、全生存期間との関連性を解析したものである。その結果、血清中の低OPN濃度は良好な予後と有意に相関しており、OPNは将来の非小細胞肺癌の多国籍臨床試験で検証されるべき予後予測の有用なバイオマーカーとなりうることを示したものである。本論文の内容は、肺癌予後の新たなマーカーを求めた分子疫学の分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。